

徳島県

徳島市

TOKUSHIMA



徳島市の国際交流

徳島市総務部総務課

徳島市の概要

徳島市は、徳島県の東部に位置し、四国一の大河・吉野川とその支流が作り育てた三角州に発達した人口二六万人余の県都です。地方の中核的都市として、産業をはじめ、政治、経済、文化、教育、情報など、さまざまな面において高い集積があります。気候は温暖で物産は豊かです。吉野川をはじめ市内を縦横に流れる大小の川と優美な眉山の緑は、住む人に安らぎを与え訪れる人をいやします。また、阿波おどり、人形浄瑠璃、藍染、あわじじら、木工製品、すだちなど徳島の風土と歴史が育んだ個性的な文化を有しています。

特に、世界に誇る伝統芸能である阿波おどりは、毎年八月の四日間開催され、観光客は約二〇万人にもものぼり、県内外はもちろんのこと海外からも大勢の観光客が訪れるなど、世界にもその名を知られた徳島の夏祭りとなっています。

徳島市の姉妹・友好都市

徳島市では、海外の三都市、アメリカ合衆国ミシガン州サギノー市（一九六一年提携）、ポルトガル共和国ベイラトリトラルレイリア市（一九六九年提携）、そして中華人民共和国遼寧省丹東市（一九九一年提携）と姉妹・友好都市提携を結んでいます。

●サギノー市（アメリカ合衆国）

サギノー市は、米北東部五大湖に囲まれるミシガン州の東中央部にあります。「サギノー」は「流れ出る」という意味を持つ先住民の言葉が語源と言われており、その名前のとおり、サギノー川をはじめ四つの大きな川が合流しサギノー湾に流れています。現在では、航空機、自動車部品工場、化学工場を中心とした産業や、郊外での酪農、豊かな農地からとれるいんげん豆、甜菜などの農作物の生産が盛んです。

サギノー市とは、一九六一年に提携を行い、二年後には姉妹都市提携五〇周年を迎えます。サギノー市には、両市の友好のシンボルである茶室「阿波鷺能庵」があります。この茶室は、徳島市民・サギノー市民の相互理解と共同協力のもと、一九八六年に落成しました。



↑茶室「阿波鷺能庵」での茶会の様子

サギノー市との交流では、この茶室を活かした文化交流を中心として、相互訪問を行うなどし、交流を行っています。

近年の交流としては、中高生間での交流が盛んとなっています。二〇〇二年からこれまで三回、徳島市立高等学校や中学校でサギノー市の中生グループを、約一〇日間のホームステイとして受け入れを行いました。また、二〇〇八年度から新しい事業として、

未来を担う子どもたちの交流、教育分野での交流に取り組んでいます。

徳島市立高校生が、サギノー市の中高一貫校で中期のホームステイを行っています。言語習得や異文化理解に努めるなど、姉妹都市間で



↑ 藍染め体験をするサギノー市の中学生

●レイリア市（ポルトガル共和国）

レイリア市は、ポルトガルの首都リスボンから北西へ約一五〇kmに位置し、街を望む高台に中世の壮麗なレイリア城がたたずみ、レンガ色の屋根と白い壁の家々、その間を駆けぬぐる石畳の坂道など、歴史的な面影を残した魅力的な街です。主な産業は、ガラス工業、陶器、機械、松ヤニ、プラスチック、セメント製造です。また、美しい海岸や森林、高い尖塔が特徴的なゴシック様式をはじめとする宗教建築、ローマ時代に起源をさかのぼる温泉治療のスパ施設など、観光都市としても注目を集めています。

レイリア市とは一九六九年に提携をし、今年で姉妹都市提携四〇周年を迎えました。徳島市とレイリア市は、ポルトガル出身で、徳島でその生涯を終えた文人ヴェンセスラウ・デ・モラエスがきっかけとなり姉妹都市提携を結びました。よって、これまでの交流においても、モラエスを軸とした文化交流

を行っています。今年四月には、姉妹都市提携四〇周年を記念して、徳島市長をはじめ市民訪問団がレイリア市を訪問しました。レイリア

市議会や、徳島市立新町小学校と姉妹校であるレイリア第六小学校の訪問、また、市民訪問団が中心となり、レイリア市でモラエスに関する写真、俳画、書道の展示をするとともに、徳島の伝統芸能である人形浄瑠璃の公演を実施するなど、文化交流・友好交流を行いました。



↑ 姉妹都市提携40周年レイリア市訪問の様子（レイリア第6小学校児童による歓迎）

●丹東市（中華人民共和国）

丹東市は遼寧省の東南部、鴨緑江の河口に位置し、川を隔てて朝鮮民主主義人民共和国に隣接しており、軽工業、紡績工業、電子工業、観光、港湾などが総合的に発達した沿海開放都市です。丹東市とは、経済交流、人材交流を中心とした相互訪問交流を行っています。そして、市民団体や企業等の間での友好交流も行われており、



↑ 友好都市小学生卓球交歓大会での様子

最後に

民間レベルでの相互訪問が行われています。近年の交流としては、二〇〇七年に中国北京市で開催された日中国交正常化三十五周年日中友好都市小学生卓球交歓大会に丹東市とチームを組み出場し、スポーツ交流として小学生間での交流事業を行いました。

徳島市の姉妹都市交流では、行政レベルの交流はもちろんのこと、市民レベルでの友好交流が活発なものとなっています。

サギノー市との交流は約半世紀、レイリア市とは四〇年、丹東市とは約二〇年という、どの都市との交流においても、長い交流の歴史があります。こうした長年の交流の積み重ねにより、両市民間での友好交流は、両市、両市民に浸透されたものとなっており、市民団体・教育機関・企業等との友好交流は盛んに行われています。

徳島市の国際交流では、国際感覚豊かな市民性をはぐくみ、都市活動の中の国際化を高めることを目標として、本市における文化、経済、教育等の国際化を積極的に推進することにより、地域社会の活性化を図ることに努めております。

この長い歴史ある交流を、さらに末永く深めていくためには、これまでの数々の素晴らしい交流・心温まる交流を世代から世代へ引き継ぎ、さらなる友好と相互理解に努めていきたいと考えております。

愛知県

豊橋市



平和・交流・共生のまち 豊橋

豊橋市文化市民部多文化共生・国際課

豊橋市の概要

豊橋市は、愛知県の東部「東三河地方」に位置し、東は静岡県と境を接し、南は太平洋に面しています。

東三河は、古くには「穂の国」と呼ばれ、実りの豊かな土地柄だったようですが、豊橋市もやはり豊かな自然環境と温暖な気候に恵まれています。

約二六〇km²の市域は、おおむね平坦な地形で、東の山地から西の三河湾へと緩やかに傾斜し、南部は台地を形成し、急な崖で太平洋に臨んでいます。

この自然豊かなまち豊橋市は、人口約三八万人を有する、バランスのとれた産業が集積するまちでもあります。特に、農畜産物の生産、三河港での自動車輸出入などは全国トップレベルの水準となっています。

本市は、一九〇六年に県下二番目の市として産声をあげ、一九九九年に中核市の指定を受け、二〇〇六年には市制施行百周年を迎えました。

今後、さらに魅力あふれるまちに成長するため、地域の特色を生かした国際化を推進し、活力に満ちた市民生活の実現を目指すことが求められています。

海外都市との交流

現在、豊橋市は海外の四都市と友好親善

の関係を結び、行政・市民が多様な交流事業を展開しています。

○南通市（中国江蘇省）

一九八七年五月に友好都市提携を結びました。七七〇万人の人口を持ち経済開発区にも指定される大都市の南通市とは、相互の友好訪問団派遣など継続的に活発な交流活動が行われています。

○晋州市（韓国慶尚南道）

一九九二年七月に両市の教育委員会が友好提携を結び、毎年両市の小学生が互いの学校訪問やホームステイを実施するなど、教育交流を深めています。

○トリード市（アメリカオハイオ州）

二〇〇〇年四月に姉妹都市提携を結び、来年十周年を迎えます。トリード市からの大学生訪問団受入、地域の青少年派遣などのほか、小・中学校のALTとしてトリード出身者を採用するなど、行政・民間で活発な交流が続けられています。

○パラナヴァイ市（ブラジルパラナ州）

二〇〇八年八月に本市教育委員会とパラナヴァイ市が友好提携を結び、教員交流を行っています。昨年は日伯交流百周年であったため、本市でも豊橋ブラジルDayの中の記念事業やブラジル行政視察などの様々な交流事業を開催しました。



↑高校生派遣プログラム卒業式の様子（トリード市）

また、「愛知万博」の交流事業相手国であった、リトアニアをはじめ三カ国とは万博後に市民交流団体を設立し活動を継続するなど、海外との交流の輪は広がりを見せています。

多文化共生の取組み

さて、豊橋市には現在約二万人の外国人市民が暮らしており、人口の約5%を占めるほどになっています。

その国籍の内訳を見ると、ブラジルが最も多く約二万二千人、ペルーも約一万人であり、永住・定住の傾向が強い日系南米人が多いことが特徴です。

この二〇年間に起こった外国人市民の増加は急激な社会的変化であり、言葉や習慣が異なる外国人市民が生活者として地域で暮らしていく上で、解決しなければならぬ様々な課題があります。

そこで、本市では昨年度末「豊橋市多文化共生推進計画」を策定し、二〇二二年度までの五年間をかけ、課題の解決に向けて計画的・総合的に取り組むこととしています。

基本理念を「互いの国籍や文化を認め合い、誰もが安心して、元気に暮らせるまちづくり」とし、実現のために四つの目標とそれぞれに推進策を定めました。

主に豊橋市が実施主体となって進める全五〇事業の推進策ですが、関係行政機関・市民・企業・NPO等と強力な協働体制で取り組んでいくことが大事だと考えています。

国際交流協会と地域国際化

多文化共生のまちづくりを含む地域国際化の推進を考えたとき、市民レベルの活動が果たす役割はとても重要です。

一九八九年四月に財団法人として設立された豊橋市国際交流協会は、豊橋市と連携してボランティアや関係団体等を支援し、また協力を受け、積極的に草の根の国際交流活動の振興を図っています。

協会の特色ある二事業を紹介します。

○インターナショナルフェスティバル

地域の在住外国人と市民が一堂に集い、楽しんで相互理解や交流を深めるイベント。多くのボランティア、関係団体等で組織する実行委員会が主催します。

○にほんごきょうしつ

日本語指導ボランティア(約一〇〇名)が、地域の在住外国人に日本語を教えます。通年、ほぼ毎日開催しており、昨年度の受講者は九〇〇人を越える状況でした。

今年度設立二〇周年を迎える協会は、



↑インターナショナルフェスティバル(民族舞踊)



↑国際交流協会「にほんごきょうしつ」の授業風景

十一月四日(土)に記念式典・記念行事、翌二五日(日)には恒例の「インターナショナルフェスティバル」(昨年度来場者四千人)を開催し、これらの事業を通じて、さらに活動の裾野を広げようと計画しています。

「都市宣言」のまちづくり

豊橋市は二〇〇六年十二月、市制施行百周年を機に、「世界に開かれ、世界に友人をもつ豊橋」、「平和を希求する豊橋」を指し、「平和・交流・共生の都市宣言」を行いました。

平和に貢献するための国際協力と交流及び異なる文化や生活・習慣の相互理解に基づく多文化共生の取組みの必要性は、社会のグローバル化や市民ニーズの多様化の中で、一層高まっています。

そこで私たちは、昨年度末に策定した「平和・交流・共生の都市宣言推進計画」において、都市宣言の理念に基づくまちづくりの方向性と関連する施策の推進方針を明らかにしました。

今後は、「都市宣言」のまちづくりに向け、市民をはじめ広く連携し、施策を総合的に展開することにより、計画を着実に推進することが重要だと思っています。

※「多文化共生推進計画」、「平和・交流・共生の都市宣言推進計画」の詳細内容は、豊橋市HPの多文化共生・国際課のページ